

きたやまおさむ講演 2020年2月23日 くにびきメッセ国際会議場 500人
主催 島根いのちの電話 40周年記念事業

島根には縁がある。

浜田極楽寺に、北山家の墓。明治の頃に油商人していたが祖父が夜逃げ。父は京都の墓に。
浜田いた叔母が生前（フォークルの頃）に歌碑を作った。将来は、京都の墓に入る。

加藤和彦

死後に彼のスタジオを片付けた。唯一残っていたのが、学生時代のフォークルの写真。

自身は70年代に歌手を辞めた。辞めて良かった。圧倒的に良かった。今の自分がある。
今日の今がとても大事でプレイバックできない。

「有り難い」「取り返しつかない」「今日が最期かも」

NHK 紅白には3度のチャンスがあった。

- 1 フォークル時代 でも解散目的の歌
- 2 再結成時代 坂崎が反対した
- 3 審査員要請 でも歌うたいたかったので断る

本題

精神分析の劇的観点

- 1 人の行動には「台本」がある＝業（ごう）
楽しいことをちょっとやるのが北山の台本
- 2 台本を変える「こころの楽屋」が必要
医療でいえば、精神病院
- 3 「人生物語」ことばを読む

精神分析のことばの読み取り

- したい（願望）
- が心配（不安）
- 私が○○するのですね（対処）

自身の比喩表現

「天国で姉ちゃんと酒を飲む」（帰ってきた酔っぱらい）

比喩的に反復することが大事。ことばを発することで改善する。

人生なんとかしたいなら、ことばで紡いで、ことばを見つけ出して、見つけるだけで自分が見つかるともある。

みんなの反復が、文化であって、そこから学ぶことができる。

古事記

死後の腐敗 忌み嫌うから「禊ぎ（みそぎ）」

つるの恩返し つう 見かけは美、豊、生産的だが、傷ついている。

日本人の潔さ＝見られた側が去って行く（おかしい）

逃げないで、見る側が変わることを待つ。

上方落語（桂文枝の新作落語）

江戸落語にないグズグズさ。

人生劇場を変えるには時間がかかる。この待ちこそ「ゆとり」

悲劇反復しないためには、

人間の不純さを生きる。あわてない。パニックにならない。

汚れ（けがれ）を受け入れる。

二重性葛藤の両方に立つ。その間に、事態は変わることがよくある。

「ゆ」＝ゆっくり、ゆったり、余裕（よゆう）、ゆとり、ゆるむ.....

ダラダラと生きていきましょう。最後は土に返る。

Q 教師の立場から、若者に示すとしたら。

A 現代の若者は、「ことば」に対して「本当にそうか」と問う。

ことばに説得力があるのは、行動や生き方が一致していること「自己一致」

Q 10年前に息子が自死した。息子の自死に意味があったと自身に納得して生きてきた。

A はぎれの悪さ、揺るぎこそが大事、価値がある。短命、有限だからこそ「有り難い」

Q それでも加藤和彦を助けられなかった

A 最期の半年は、(入院させて)友情を壊したくなくて他の医師にお願いした。詳細は不明。